



Japan Society of
Youth and Adolescent Psychology

Newsletter

第 77 号 2019 年 2 月 7 日
発行：日本青年心理学会事務局

■目次

<第 26 回大会委員長挨拶>

溝上慎一：青年心理学会第 26 回大会を終えて 1

<特集：日本青年心理学会第 26 回大会>

下坂 剛：若い力を感じた学会の場 2

田澤 実：日本青年心理学会第 26 回大会に参加して 3

村井史香：初めての大会参加 3

堀井順平：日本青年心理学会第 26 回大会での研究発表 4

侯 玥江：青年心理学会第 26 回大会に参加した感想 4

<書評>

渡辺伸子：高橋 登・山本登志哉（編著） 東京大学出版（2016 年刊）

『子どもとお金 おこづかいの文化発達心理学』 5

<広報>

広報・ニューズレター編集委員会からのお知らせ 5

事務局からのお知らせ 6

<第 26 回大会委員長挨拶>

青年心理学会第 26 回大会を終えて

大会委員長 溝上 慎一（桐蔭学園）

2018 年 10 月 27 日（土）～28 日（日）に京都大学吉田キャンパスにおいて、第 26 回大会を開催いたしました。大会に参加され熱心に議論された会員の皆さまに心よりお礼を申し上げます。また、委員長の私が 8 月末で京都大学から桐蔭学園へ異動しましたので、大会前の 2 ヶ月間の準備はほぼ遠隔での指示のもと進められました。そのような中、大会案内の看板を準備し忘れたのは痛恨の極みでしたが（お詫び！）、それ以外はとくに大きな問題もなく無事大会を終えることができました。準備に当たった大会委員に厚くお礼を申し上げます。

大会には計 111 名の方（非会員を含む）が、懇親会には 60 名の方が参加されました。

プログラムでは、西平直教授（京都大学）と学会理事長の大野久教授（立教大学）より、講演・対談「ライフサイクル研究の途上にて」がなされました。フィンランドからヘレナ・ヘルプ名誉教授（タンペレ大学）を招聘し、「青年期の学校から仕事へのトランジションにおけるアイデンティティホライズンと時間的展望」についてご講演をいただきました。ほか研究委員会「発達障害を有する青年の成人期への移行に関する研究展望」、自主シンポジウム「日本人の宗教性とアイデンティティを考えるー日本人のアイデンティティ発達に宗教は関与しないのか？」、個人研究発表 21 件の報告がなされ、活発な議論がなされました。青年心理学会と皆さまの研究の発展に資したものと思います。

今年は理事役員の改選の年でもありました。総会では、大野久理事長（立教大学）が再選され、新たに 3 名の若手の理事が加わったことが報告されました。2019 年度より

心新たに再出発して、学会の運営をおこなってまいります。

次年度の大会は、小沢一仁大会委員長のもと、東京工芸大学で開催されます。バトン
を小沢先生に渡して、本年度の大会の報告とさせていただきます。皆さま、まことに有
り難うございました。来年またお会いしましょう。

＜特集＞ 日本青年心理学会第 26 回大会

昨年 10 月、京都大学にて [日本青年心理学会第 26 回大会](#) が開催されました。大
会では、今後の研究の発展につながる討論のできる十分な時間が用意された口頭
研究発表の他、対談形式の講演、招待講演、研究委員会企画シンポジウム、自主
シンポジウムなど、さまざまな企画を通して活発に研究交流が行われました。こ
れらのプログラムを通して、大会に参加された先生方それぞれが、お互いに啓発
し合うことができたと思います。今回は、大会にご参加の先生方から感想をご寄
稿いただきました。ご執筆いただきありがとうございました。

(担当：佐方哲彦・増淵裕子)

若い力を感じた学会の場

下坂 剛（四国大学）

先日、京都大学で開催された青年心理学会第 26 回大会では、昨年に引き続いて口頭
発表をさせていただきました。私の発表は 2 日目でしたので、初日は皆さんの発表をお
聞きしていたのですが、残念ながら夕方からの懇親会には参加しませんでした。著名な
先生方が多く参加される場なら自分は場違いかなと考えていたのですが、翌日、知人の
先生から「なんで懇親会にこなかったの？」と言ってお聞きいただき、気軽に参加すればよか
ったと少し後悔しました。京都はなかなかホテルがとれず、その夜はゲストハウスに初
めて宿泊したのですが、たくさんの外国人の方々がいらっしゃるところで、東の間の国
際的な雰囲気を堪能しました。

2 日間を通じて、皆さんの発表をお聞きしていて感じたのは、統計処理で多母集団同
時分析を多くの方々が行っておられ、分析レベルが相当上がっているということでした。
構造方程式モデリング自体、10、20 年前はほとんどポピュラーではなかったと記憶し
ていますが、若い方々はどんどん新しい分析にチャレンジされているのだなと心強く感
じました。今回の学会も、著名な先生方はもちろん、院生の方や優秀な若手の方がたく
さんいらっしゃる上に、皆さん堂々としておられ、質疑応答に活気があるなとも思いま
した。それから、2 日目に私自身が口頭発表した際も、複数の先生方から有益なコメン
トをいただくことができました。ご助言いただいた皆様にはこの場を借りましてお礼申
し上げます。

なお、今年度より研究委員会のメンバーに加えていただきました。これまで学会の委
員として学会運営にご協力する機会がなかなかなく、多くの委員の先生方と仕事を通し
て交流させていただいております。池田幸恭委員長のもと、現在はアーカイブズデータ
の作成に取り組んでおります。なお、2019 年 2 月 16 日（土）（13:30～16:30）には、
再び京都大学を会場とさせていただき、研究委員会ワークショップを開催します。大阪
教育大学の白井 利明先生に「青年心理学はなぜ勤労青年を取り上げないといけないの
か」というテーマで話題提供していただきますので、ぜひご参加下さい。

微力ではございますが、少しでも学会の発展に貢献し、多くの皆様と研究者としてつ
ながっていったら大変ありがたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

日本青年心理学会第 26 回大会に参加して

田澤 実（法政大学）

日本青年心理学会第 26 回大会に発表者として参加させて頂きました。発表に際しては、研究委員会の皆様に大変お世話になりました。何よりもお声掛け頂きありがとうございました。

「発達障害を有する青年の成人期への移行に関する研究展望」というシンポジウムで指定討論の役割を担わせて頂いたのは、私にとって貴重な事でした。話題提供の先生方の発表が大変意義深いものであったこともあり、気づけば、やや興奮気味に、勝手に話題提供の先生方のスライドをお借りして我が物顔で指定討論のコメントをしていたかもしれません。それにもかかわらず、フロアの皆様からは多くの質問が出てきたことは嬉しく思いました。発達障害は様々な学会で扱うテーマであると思いますが、日本青年心理学会であるからこそその切り口などもあり、私自身が非常に勉強をさせて頂きました。

また、2 日目のみとなりましたが、個人の研究発表についても聞くことができました。口頭発表が質疑応答含めて 45 分間あるというのは本学会の特徴であると思います。発表時間が短いとおおよそ結果と考察に主眼を置くことが多いですが、発表時間が長いと問題意識について長く説明ができる傾向があると思います。なぜこのような研究をしたのかについて詳しく説明ができると、フロアからの質問の質も変わると思います。

私は会員になって 10 年以上経過しておりますが発表したのは初めてでした。言われてみれば貴重な機会を逃し続けてきたのだと思います。私が最後に申し上げたいことは、今後、本学会での発表を視野に入れている会員の皆さんには是非、この発表環境を最大限に活かして頂きたいということです。この度はありがとうございました。

初めての大会参加

村井 史香（北海道大学病院）

第 26 回大会にて、「青年期の友人関係におけるキャラと承認欲求・評価懸念との関連」のテーマで発表させて頂きました。青年心理学会大会には、今回が初めての参加です。これまで他の学会でポスター発表をしたことはありましたが、この度、初めての口頭発表に大変緊張しました。情けないことですが、発表の前夜はあまり眠れなかったほどです。

本番を前に、誰も来られなかったらどうしようかと不安になりましたが、発表が始まる頃には多くの先生方にお集まりいただき、とても嬉しかったです。質疑の時間にはデータの収集方法、解釈の可能性について様々な角度からご意見をいただきました。ちょうど行き詰まりを感じていたところに、「このようなやり方もあるのでは？」といった提案をいただくことができ、また一歩先に進むことができそうです。

他の先生方の発表からも刺激を受けました。普段は自分自身の関心に沿って論文を探すことが多く、領域も偏りがちです。しかし、本大会でユニークな研究をたくさん拝見し、新しい分析方法やその結果の解釈なども知ることができました。自身の知識の乏しさを痛感したのと同時に、興味関心の世界を広げる機会を得たことを嬉しく思いました。

学生のときには、先生方、研究室の先輩、同期と研究の話をする時間がたくさんありました。しかし、社会人となった今、日々の仕事に追われ、そういった機会はあまりありません。青年心理学会大会は、私がこれまで参加したどの学会よりも小規模でしたが、その分、一つ一つの研究が丁寧に議論されている印象を受けました。久しぶりに、贅沢なゼミに参加したような気分を味わわせていただきました。

最後になりますが、大会を企画、運営してくださった皆様に感謝申し上げます。また、ニューズレターに寄稿する機会をいただき、ありがとうございました。

日本青年心理学会第 26 回大会での研究発表

堀井 順平（広島大学教育学研究科）

私は、日本青年心理学会第 26 回大会にて研究発表をしました。研究内容は大学生を対象に、第 1 志望か否かを調整変数として、大学受験のとらえ方とコーピングとキャリア選択自己効力感の関連について検討したものです。本研究発表の中でも、先生方からのコメントは非常に有益で示唆に富むものでした。

本研究発表において先生方からいただきましたコメントは、私にとって全て貴重で、大変ありがたいものでした。それらのコメントの 1 例として、第 1 志望の学生にも多様な背景が存在し、一概に望ましい属性とは言い切れないということや、大学受験に対する後悔にも様々な様相があるのではないかなどが挙げられます。そのようなコメントから、大学生の大学受験のとらえ方について様々な側面から掘り下げられることを感じたとともに、大学生の大学受験のとらえ方に対する私自身のこれまでの考え方がいかに浅く、狭いものかを痛感しました。また、日頃から大学生と接し支援している立場からのコメントもあり、大学院生の私にとって、ある種の新鮮さを感じました。さらに、本研究のサンプリングの問題についてのコメントもいただき、これから研究を進める上で、選定しようとする調査対象者が適切なのか否かを吟味する必要があると改めて思いました。本研究発表にて先生方からいただきました全てのコメントは、大学生の大学受験のとらえ方に対する私自身の「とらえ方」について、今一度多角的に見つめ直す必要性を提示されたとともに、私の今後の研究を発展させるうえで非常に有益なものとなりました。

最後に、座長を務めてくださいました大阪府立大学の畑野快先生、質疑応答で質問やコメントをくださいました先生方、私の研究発表を聞いてくださいました皆様、そして記事の執筆の機会をくださいました駿河台大学の杉本英晴先生に心よりお礼を申し上げます。

青年心理学会第 26 回大会に参加した感想

侯 玥江（HouYuejiang）（北海道大学大学院教育学院）

日本青年心理学会は、ベテラン研究者も若手研究者もそのキャリアを問わず、口頭発表の機会が与えられている点が素晴らしいと思います。私は毎年参加するたび多くのことを勉強させて頂いておりますが、今回特に印象に残ったことは 2 つあります。

1 つ目は、私にとって外国語である日本語での質疑応答です。今回の発表では、率直に言語の壁を認めたうえでコミュニケーションを取ろうと試みました。発表スライドの最後に「聞き取りが苦手なのでゆっくりの日本語で」と載せ、会場の先生方のご協力をお願いしました。これまでの学会では、せっかくフロアの先生方から発表後にご意見やご指摘を頂いても、自分が言語のレベルで理解できていないのか、学術的なレベルで理解が追いついていないのか、それとも両者が相互に影響しているのか、自分でもよく分からないことがありました。そうすると、分かったふりをして無理やりかみ合わない答えを出してしまったり、答えられずに沈黙したりしていました。しかし、これではいけないと思い、今回は開き直ってこのスライドを出したところ、会場の先生方は笑いながら、とても親切にゆっくりとご意見やアドバイスを述べてくださいました。そのおかげで、これまでの中で最も頂いたコメントを正確に理解することができた学会になりました。この場を借りて先生方のご厚意に感謝申し上げます。

2 つ目は、学会や会員の皆様との親近感を感じられたことです。これまで、ワークショップを含めると 4 回ほど日本青年心理学会の場に参加しました。最初は顔見知りの研究者もおらず、議論の内容もハイレベルで難しく、ずっと固まっていることしかできませんでした。しかし、参加の回数が増えるにつれて、見覚えのある顔が増え、挨拶でき

る方の数も多くなりました。そして日本青年心理学会では面識の有無に関わらず、会場の先生方より厳しくも優しい鋭いコメントがもらえることから、私にとって日本青年心理学会の大会は年に一度の楽しい勉強の機会だと思えました。また、自分の発表以外でも面白い発表が数多くあり、今後の研究を続けるモチベーションにもつながりました。とてもいい経験をさせて頂きました。

<書評>

『子どもとお金 おこづかいの文化発達心理学』

高橋 登・山本 登志哉（編著） 東京大学出版会（2016 年刊）

渡辺 伸子（東北公益文科大学）

本書は、子どものおこづかいに焦点を当てた心理学の研究書である。「おこづかい」という言葉からは、少額で、現金で、ときどき支給されるお金、というややかわいらしいイメージが喚起される。しかしながら、本書において、おこづかいは大変ダイナミックでエキサイティングな姿を現している。

本書は、小学生から高校生までの子どもたちを対象に、日中韓越の4ヶ国で行った調査をまとめたものである。調査方法は面接調査と質問紙調査で、本文とともに逐語録の抜粋や国ごとのグラフが掲載されている。本書ではおこづかいを文化的な道具ととらえている。文化的な道具なので、つかい方に関して様々な規範があり、子どもは発達の過程でそのつかい方を身につける必要がある。また、お金は社会の中で、人とモノ、人と人を結ぶ役割も果たしている。ここから描かれるのは、「人と仲良くなるために、社会において望ましいとされるお金のつかい方を身につける」という発達課題に取り組む存在としての子どもである。

詳細に紹介する紙幅がないのが残念であるが、日本の子どもの特徴として本書で挙げられているのは、「自分のお金」という意識が強く、親や友人などの他者へ貸したり分けたりすることが少ないことである。本書では割り勘の多い日本の子どもたちの友人関係を「自己限定型友だち関係」と命名している。加えて、他の3ヶ国と比べて高度な消費社会に生きる子どもたちの姿も描かれる。

青年心理学においては、伝統的に、非物質的なものにスポットライトが当てられてきた。しかしながら、人間はある面では物質的な存在である。お金という物質的な道具で、物質であるモノを買い、その行為によって人間関係が調整される。他の3ヶ国との比較も含め、高度な消費社会に生きる日本の青年について再考するきっかけになる本だと感じた。

<広報>

広報・ニューズレター編集委員会からのお知らせ

第72号より、会員の皆様から意見や要望を募るとともに、自由な投稿・寄稿を促すことにしたとアナウンスさせていただきました。投稿・寄稿ルールについて、再度簡単に説明させていただきます。

●会員から募集するのは、以下の5つです。

①特集テーマに取り上げて欲しいトピックス 「特集テーマ提案」

随時募集。過去のNL記事を振り返りつつ、編集委員会で検討し決定します。

②書評に取り上げて欲しい書籍 「書評推薦図書」

随時募集。原則として最新号発行 1 ヶ月前に集約し掲載します。

③書評執筆の希望 「書評執筆希望」

掲載書籍への書評執筆の希望者を、原則として最新号発行後 1 ヶ月間募集します。
該当書籍をお持ちでない場合には献本いたします。

④次号の特集テーマに関する投稿の申し込み 「特集テーマ投稿希望」

特集テーマへの投稿希望者は、原則として最新号発行後 1 ヶ月間募集します。

⑤会員からの情報や意見の自由投稿 「投稿：会員から」

随時募集。投稿内容が本学会の NL の記事に相応しいかを編集委員会で検討し、掲載の可否を決めます。不掲載の場合は、投稿者に理由を開示します。

- 投稿・寄稿時には、必ず件名を「」内の通りとし、本文の最初にお名前と所属・連絡先メールアドレスをお書きください。

- 書評および特集テーマへの執筆候補者は基本的に以下のように決定します。なるべく執筆希望者を優先しますが、編集委員会において会員の先生方の専門や経歴のほか、最近の寄稿状況を把握し検討したうえで執筆候補者を絞り込み、改めて執筆を依頼します。

- すべての投稿先は、isyap-nec@googlegroups.com（日本青年心理学会 広報・ニューズレター編集委員会）です。

- 原稿の字数は 800 字程度を原則としますが、電子版なので柔軟に対応いたします。

- 書評推薦図書として『[多様化する「キャリア」をめぐる心理臨床からのアプローチ：青年期から老年期までのケースに学ぶ](#)』長尾 博（編著）ミネルヴァ書房（2017 年刊）があがっています。書評を書いてみたい方は③の「書評執筆希望」でご応募ください。

事務局からのお知らせ

I. ワークショップ開催のお知らせ

- ・研究委員会では、以下のとおりワークショップを開催いたします。ぜひご参加ください。

- ・第 4 クール（2018 年～2020 年）の長期的テーマ
「青年期から成人期への移行の多様性」

- ・ワークショップ概要

日 程 2019 年 2 月 16 日（土） 13：30～16：30

場 所 京都大学吉田南 1 号館 201 （京都市左京区吉田二本松町）

内 容 「青年心理学はなぜ勤労青年を取り上げないといけないのか」

話題提供：白井 利明（大阪教育大学）

参加費 無料

※ワークショップ終了後に、懇親会を予定しております。

* 申込み・問い合わせの詳細は下記をご確認ください。

http://www.gakkai.ac/jox1onw6u-1805/?action=common_download_main&upload_id=4258

2 月 9 日（土）までにお申込みいただけますとありがたく存じます。ただし、当日参加を妨げるものではございません。

II. 2018 年度日本青年心理学会研究委員会アーカイブズ企画のお知らせ

研究委員会では、青年心理学に関連する貴重なデータを学会会員間で共有し、その研究活動に貢献することを目的としたアーカイブズを企画いたします。このアーカイブズ

企画は、研究委員会の共同調査によって収集されたデータをデータファイルとして蓄積し、本学会会員が所定の手続きを経ることで活用できる仕組みです。

- ・対象データ：2種類（現代青年の生活時間、現代青年の日常の活動に対する評価）
- ・申込期限：2019年2月28日（木）
- ・申込方法：「アーカイブズデータ利用規約」を確認した上で、「利用申請書」のフォームに必要事項を入力、押印して pdf ファイルなどで以下のメールアドレスに送信してください。

※研究委員会アーカイブズ企画担当 jsyaparchive@gmail.com

※メールの題目に「2018年度アーカイブズ利用申請」とお書きください。

※研究委員会アーカイブズ企画担当による審査後に連絡いたします。

会員の皆さまに積極的にご利用いただけますと幸いです。
どうぞ宜しくお願い申し上げます。

詳細は下記をご確認ください。

*アーカイブズ企画（ご案内）

http://www.gakkai.ac/joxlonw6u-1805/?action=common_download_main&upload_id=4259

*アーカイブズデータ利用規約

http://www.gakkai.ac/joxlonw6u-1805/?action=common_download_main&upload_id=4260

*利用申請書

http://www.gakkai.ac/joxlonw6u-1805/?action=common_download_main&upload_id=4261

III. 2019年3月より事務局が京都大学から日本女子体育大学へ移転します。

・役員交代のため、2019年3月より事務局を日本女子体育大学の三好研究室へ移転します。3月初旬に予定している機関誌第2号、2019年度年会費振替用紙の発送から、新事務局へ作業を移行いたします。

〒157-8565 東京都世田谷区北烏山 8-19-1 日本女子体育大学 三好研究室内
TEL: 03-3300-2826

- ・なお、年会費等の振替口座、E-mailの変更はございません。

IV. 学会メールリングリストをご利用ください

- ・現在、電子版ニューズレターや大会・研究会などの案内を、学会メールリングリストによって配信しています。会員であれば、青年心理学に関する研究会や講演会・シンポジウムなどの案内を、このメールリングリストを用いておこなうことができます。セキュリティの関係上、事務局からのみの発信となりますが、どうぞご利用ください。

日本青年心理学会事務局

The Japan Society of Youth and Adolescent Psychology

E-mail : seinenshinri@gmail.com

Website : <http://www.gakkai.ac/jsyap/>

振替口座：00940-6-273417

口座名称：日本青年心理学会

お問合せはできるだけ E-mail でお願いいたします。